



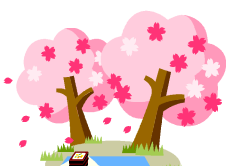
第300回記念大会

2011.4.24

幟町中学校 (参加 230人)

第300回記念大会を開催

がんばれ日本 がんばれ東北 陽は必ず昇る



去る四月二十三、二十四日の二日間、日本を美しくする会の鍵山秀三郎様をはじめ副会長千種敏夫様、九州・沖縄ブロック長、鹿児島掃除に学ぶ会会長鎌田善政様のご参加の下、第300回記念大会を開催いたしました。東日本大地震から一ヶ月余り、当初、日本を美しくする会から掃除に学ぶ会自粛が発せられていましたが、「こうだからやらねば」との会員の多くの強い後押しを受けて開催に踏み切りました。こうした経緯の下、本大会のテーマを「がんばれ日本 がんばれ東北 陽は必ず昇る」と定めた次第です。

大会は、二日間にわたり延べ参加人員五五〇人となりました。大会初日は、第300回記念講演、第300回記念DVDの放映、東日本大地震の追悼演奏、二百回以上の参加者紹介、その後、交流会の開催、二日目は、第300回・掃除に学ぶ会を開催して閉幕しています。また、併せ初日には、中国ブロック会議を開催するなど多種多様で意義の有る記念すべき大会となり、三百回の大きな節目を迎えた広島掃除に学ぶ会にとって新たな第一歩を踏み出しました。

なお、大会には、共催の呉掃除に学ぶ会、庄原掃除に学ぶ会、広島便教会の皆様をはじめ中国ブロック内の下関掃除に学ぶ会、宇部掃除に学ぶ会、松江・出雲掃除に学ぶ会、岩国掃除に学ぶ会、鳥取掃除に学ぶ会、岡山掃除に学ぶ会、福山掃除に学ぶ会の皆様、また、遠方から、愛媛掃除に学ぶ会、高知掃除に学ぶ会、徳島掃除に学ぶ会の多くの善友の皆様方が参加してくださいました。

○ 中国ブロック会議

大会初日午後0時半、中国ブロック会議を開催。参加者三十人。日本を美しくする会副会長千種敏夫様が、東日本大地震の災害状況DVDを放映され、現地での実体験された状況を報告されました。また、九州・沖縄ブロック長鎌田善政様からは、九州・沖縄ブロック内の掃除に学ぶ会の開催状況報告をされました。その後は、中国ブロック各掃除に学ぶ会から近況報告がなされ、次回、中国ブロック研修会を十一月、福山・福山掃除に学ぶ会で実施することを決定して終了しています。

○ 第300回記念講演（共催 広島西交通安全協会）

会場定員二百五十人。参加申込み半月前に既に定員オーバーし、当日の飛び込み参加をも予測して混雑を心配していましたが、予測通り会場が満席となり立ち見席が出るほどの大盛況でした。広島掃除に学ぶ会会員も約四十人が受付、会場係、会計係、写真係と役割を担って努めています。

・大会セレモニー

講演前に大会セレモニーとして井社会長の挨拶、日本を美しくする会・副会長千種様、九州・沖縄ブロック長の鎌田様から祝辞を賜り、共催者広島西交通安全協会事務局長吉野様から共催に至る経緯のご挨拶がありました。

・第300回記念講演

講師・鍵山秀三郎様の「一つ拾えば ひとつだけ きれいになる」と題した講演は一時間。穏やかに口調から飛び出す実践に裏打ちされた内容は、聞き漏らすまいとメモをとるなどで真剣に聞き入り多くの方が感動し勇気をいただきました。

・第300回記念DVDの放映

昨年十月、一ヶ月を掛けて「これまでの歩み」と題して第300回記念DVDを企画制作しました。これが、大会前の本年二月、日本を美しくする会の総会の参加者全員に配布され、上映されています。

このDVD放映後、会場から拍手がわき上がりました。また、広島掃除に学ぶ会の皆さんも初めて見る方も多く涙が出て止まらなかったと感動されていました。

制作枚数 三百五十枚（無料配布）（第300回記念大会の開催状況のDVD制作予定）

・追悼演奏

東日本大地震で多くの方の犠牲者を偲び広島掃除に学ぶ会宇土真理子さんが追悼演奏を行いました。真暗い場内にスポットライトで浮かび上がったヴァイオリン演奏者宇土真理子さん、震災当日、ご自身も東京に居て地震の恐怖を体感したこともあって、演奏曲「アヴェ・マリア」にその情感が色濃く場内に浸透し深い感動を与えました。

・二百回以上の参加者の紹介

この方達は常連で二百回以上の参加者です。約十年以上にわたり殆どの会に参加しておられる会の中核者です。紹介された方は井辻栄輔、玉村 繁、鈴木崇仁、永本清三、時永朝夫、中川 肇、宮森 宏、谷川修二、上野和浩、大脇健一、原田保寛、先川孝徳、小林常光、奥村洋三、末長邦夫、岸本栄光方々です。代表して永本清三様が挨拶を行いました。

・宇土真理子さんに花束を贈呈

約七年間、広島掃除に学ぶ会事務局として献身的に努めてくれた宇土真理子さんが、この四月に転居され広島を去られます。これまでの労をねぎらい井辻栄輔会長から感謝の花束を贈呈しました。

○ 交流会

約百二十人参加。特に、ソーラン踊りが披露されました。これは単なる余興としてのパフォーマンスではなく、広島掃除に学ぶ会の活動事例の一環としたものです。全国の掃除に学ぶ会で広島の暴走族とトイレ掃除は、もはや全国の掃除に学ぶ会では語り草となるほどの知れ渡っています。しかし、暴走族とソーラン踊りについては余り知られていないのが実情です。実は、鍵山相談役は当時、暴走族の居場所対策として、トイレ掃除とこのソーラン踊りを同時平行に奨励・全面支援されました。これに県警が二つの施策を取り組み、県警とタイアップして広島三大祭りでの踊りとか海外・ロサンゼルス・エキスポジャパンの大舞台での踊り等々に進展し、正に広島でのソーラン踊りの先駆的む役割を担ったとも言えるのです。それをこの交流会で復活させたのです。当時、ロスに参加した若者も当時の法被を身にまとい、また、当時の随行者も参加されました。ロック調のリズムに乗った激しい勇壮な踊りに参加者の心は大きく揺さぶられ、多くの方が「ソーラン・ソーラン」のかけ声とともにリズムに合わせ身体を右左とくねらせ踊られました。正に、東日本大地震の復興を願って広島から元気を醸し出しているかの様で感動的でした。

○ 第300回記念・掃除に学ぶ会

参加者二百三十人。十五班編制、内三班は脱靴場所の清掃。特に、広島掃除に学ぶ会は脱靴場所をトイレ掃除と同程度に重要視していることに各掃除に学ぶ会の方々が着目。中には実習中に見学に来た方もありました。閉会式では、会長と宇土真理子さんの「トイレの神様」を演奏。トイレ掃除の生き神様の前での「トイレの神様」の演奏に会長楽譜が飛んだとか(笑)

最後は全員で記念撮影で終了。
大型バスで駆けつけてくれた徳島掃除に学ぶ会の方々に最後に見送りましたが、成し遂げたという安堵感と充実感に会員は手を取り合って喜びを分かち合いました。

二日間にわたって行った第300回記念大会も無事終了した今、数々の賞賛の言葉が寄せられています。広島掃除に学ぶ会は、これから新たな第一歩を踏み出しますが、第300回という実績は、単なる連番ではなく、その到達したプロセスは重くて貴重なものです。私たちは、この数字に自信と誇りを持って、これを糧として、これからも鍵山相談役の「掃除道」の普及拡大を図ることで、人を変え、社会を変えて行くことの決意を新たにしております。

本大会の開催に当たり、鍵山相談役をはじめ、多くの皆様方のご支援・ご厚情に深く感謝し、厚くお礼を申し上げます。また、広島西交通安全協会の会長様をはじめ事務局長吉野様、事務局の方々の共催支援に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

広島掃除に学ぶ会

会長 井辻 栄 輔



(文責 事務局岸本栄光)

第300回・広島掃除に学ぶ会に参加して

今日は、普段無いことに、スーツに袖を通しました。ネクタイの曲がり気になって、何回も鏡を覗きます。なんか、入学式の朝のように、そわそわしてきます。

そうです、今日は、広島掃除に学ぶ会三百回記念大会（以下、三百回大会）が開催される日なのです。受付係のために会場に着くと、すでに他の会員の方々が、準備を始めていました。いつもはお掃除の服装で見慣れている皆さんが、スーツや正装をされています。「友が皆な、立派に見える日よ」、皆さんの姿が眩しく見えます。今日は会員の皆さん一人一人にとって大切な日なのだ、そのことがヒシヒシと伝わってきます。

三百回大会は、二日間に渡って開催され、初日は鍵山相談役の講演会と交流会、そして翌日は、三百回目の掃除に学ぶ会が開催される運びです。この記念大会のために、日本を美しくする会の役員の方々と、そして、中四国を中心にした、各地域の掃除に学ぶ会の皆様が、多数ご参加下さいました。「友、遠方より来る。また嬉しからずや」、こんな大勢の皆様に、お祝いのために駆けつけていただいて、私たちは胸が熱くなります。他県の善友の皆さんには、交流会でも、お掃除の会でも、終始、温かいお気持ち、そして真摯な態度で大会を盛り上げていただきました。そのことをまず最初に、私たちはお礼申し上げなくてはなりません。

● 素晴らしい恩師と善友は、良い生き方をするために欠かせない存在です

鍵山相談役の講演の主題は、「一つ拾えば、一つだけきれいになる」でした。時よりユーモアを含めながら、目に見えるもの、カネやモノに惑わされず、目には見えない、美しい心や生き方、努力の大切さを価値として、人間らしい生き方をする事、未来の日本を素晴らしい国にして行くことを、お話されました。聴講者一人一人に、胸に響いた言葉があったと思います。私にとってのその一言は、「努力の最大の見返りは、自分の人間的成長である」という言葉でした。私は、目先の損得や効率にとられず、「人間として大きく生きる」ことの大切さを、この記念の講演で、鍵山相談役からいただいたように感じたのでした。

交流会は、愉快極まりないものでした。初めてお話しする方、久しぶりに再会した友人、お掃除の話を中心に、会話に花が咲きます。そして、各地の参加者の皆さんのご挨拶や贈り物の紹介、宇土さんと快調による演奏（快調が、自分でアンコールするから、長くなつたじゃんか！笑）、翔龍の皆さんによる「よさこい」踊りのパフォーマンスなど、テイアの美味しい料理に舌鼓を打ちながらの、楽しい一夜になりました。「自分たちと同じように、全国に、お掃除を頑張ってる善友のみんながいるんだ！」その嬉しさを胸に感じた、楽しい宴でした。

● 三百回は長い道のりの一里塚、これからも美しい心の道を歩み続けます

翌朝は、広島市立幟町中学校での掃除に学ぶ会です。三百回大会にふさわしい、そして広島掃除に学ぶ会らしい掃除に学ぶ会にしたい、そのために、道具を整備したり、綿密な打ち合わせをしてきました。私は朝からずっと、駐車場の係をしていました。「おはようございます！」、車の窓からみんなが、笑顔で声をかけてくださいます。そして、徳島の皆さんが小型バスで、十数人で到着された時には、「こんなに大勢の方が、私たちのためにはるばると・・・」、なんか、私は目頭が熱くなったのでした。

前日の司会に続き、今日の会の進行も、青谷文子さんが務められます。青谷さんも、この会には無くてはならない存在です。プロのアナウンサー並みの美声と間合いで、今日の大役を務めていただきました。元々は、お嬢さんたちのために始めたお掃除、それが今では、彼女自身を変えたと思えます。そして快調挨拶。前日の開会挨拶では、古いカネヨンのように固まっていたが、今日は、醤油ネタも出て、「我がが快調」でした。冗談が言えたり、笑いがある、この雰囲気があるからこそ、広島掃除に学ぶ会が続いているのだ、私はそう思うのです。

私は、なぜトイレ掃除か、の唱和の係でした。私は他県の皆さんに、広島ほど、この文章を大事にしてきた会は無い、と言いました。どんな短い会でも、臨時の会でも、この唱和を省略したことは、ものの一度の無いのです。それは、私たちが、「形だけの、心の籠らない掃除に学ぶ会なら、しないほうが良い」と、考えてきたからです。掃除に学ぶ会は参加人数や規模じゃない、お掃除に学ぶ心がそこにあるのか、その中心点がブレずにここまで来た、そのことを他県の皆さんに伝えたくかったです。百数十回も唱和し続けたこの言葉、今日の私も、その一言も言い間違えることはありませんでした。

お掃除研修と感想発表会は、日頃通りの中身で、他県の皆さんと出来たと思います。上下関係ではな

く、年の多少でもなく、教えたり教えられたり、「お掃除を学ぶ」という、心の繋がりを起点に、素晴らしい研修と発表会になったと思います。「化粧をしてない、すっぴんの広島のお掃除の会です。カッコつけない、私たちの会が学んでる姿を、どうぞ、地元に戻ったら皆さんにお伝えください。」「三百回は終着駅ではなく、これからも広島は進歩発展を目指すつもりです。共に頑張りましょう!」それが、他県の皆様にお伝えしたいメッセージなのです。

● 三百回を迎え、これまで会をお支えていただいた皆様に言いたいこと

この三百回大会を迎え、本会員の皆さん、特に会の中心となって活動されてきた皆さんの胸中には、感慨やいろんな想いがあったことと思います。先川さんが発表の中で、「お掃除の無色の光に、ステンドグラスのように様々な色に輝く、会員のみんながいる」と言われたように、会員一人一人の人生には、それぞれ違う、お掃除との出会いや学び、そして汗と涙と感動があったはずだからです。

私には、今はご病気で、この会に参加されていませんが、大好きな人がいます。その人は、広島リコーの中村雅雄さんです。昔から参加されている方で、中村さんのこと知らない人はいない、と思います。中村さんは、頼まれたらイヤと断れない人柄で、パソコンの修理も、無償で、直るまで一生懸命、お客さんに尽くしていた人でした。素直で、温厚で、努力家の中村さんは、掃除に学ぶ会でも愛されて、当時は司会進行をされていました。個人用の、プラスチックのお掃除ボックスを持って、会に参加する中村さんを見て、みんなマネをしたものでした。

善友通信の初期に、感想文を書いていたのも、実は中村さんでした。しかし、中村さんが体調不良で欠席が続いたとき、たまたま私が代役で書いたのが始まりで、その後、私が担当するようになったのです。だから、十年以上書き続けてきた私の感想文ですが、今でもずっと、「自分は、中村さんの代わりに書いてるんだ」と想い続けているのです。ずっと会ってなくても、私と中村さんはお掃除仲間であり、この会を通じて、いつも心で繋がっているのです。

私は小柄で、力も強くない。体力で劣ってる私は、会の様子をメモしたり、人の努力をお伝えしたり、気づきや感動、共鳴したことを文章にして、みんなに読んでもらおう、そして、参加しなかった人には会の様子を、参加した人には感動をもう一度分かち合おう、そういう気持ちで感想文を書いてきました。

会員は一人一人、仕事も家庭の環境も違うので、全員が同じように、会の運営に協力できる訳ではありません。能力にも差があります。しかし、自分の出来ることでベストに協力するのなら、貢献度とかは関係がないと思います。心から有り難いな、と思うだけです。「自分で出来ることで一生懸命に協力して、会を支えていく」この気持ちの集りが、広島掃除に学ぶ会であったし、それは、今からも変わらないと信じています。

● 井辻快調、三百回、ご苦労様でした。そして、ありがとうございました。

いつもの会のように、会の最後に、全員で「故郷」を合唱しました。途中で井辻快調は、これまでのことが走馬灯のように想い巡って、目頭が熱くなったそうです。そうです。快調は、この三百回の掃除の会を、ほとんど休むこと無く、その職責を全うしてきたのです。

快調は、「わしが頑張ってきたから、今がある」とは決して言いません。でも私たちは、そのことをよく分かっているんです。威張らない、みんなのために、謙虚に努力する姿勢を、快調が後姿で見せてきたからこそ、私たちはついて来れたのです。こんな愛すべき快調には、五百回の時も快調でいてもらわなければなりません(笑)

快調を初め、会員の誰が欠けても、私たちの会はここまで来れなかったはず。今、三百回を迎え、会員一人一人の笑顔を見つめるとき、この素晴らしいお掃除を、全国に広めたいものだ、改めて思いません。そのためにも、広島はこれからも、日本を美しくする会の先頭に立って頑張っていこうじゃないか!、そんな決意を新たに、三百回大会だったと思います。今大会にご参加いただいた全員の皆様に、心よりのお礼を申し上げます。ありがとうございました。

みやじーる宮森